

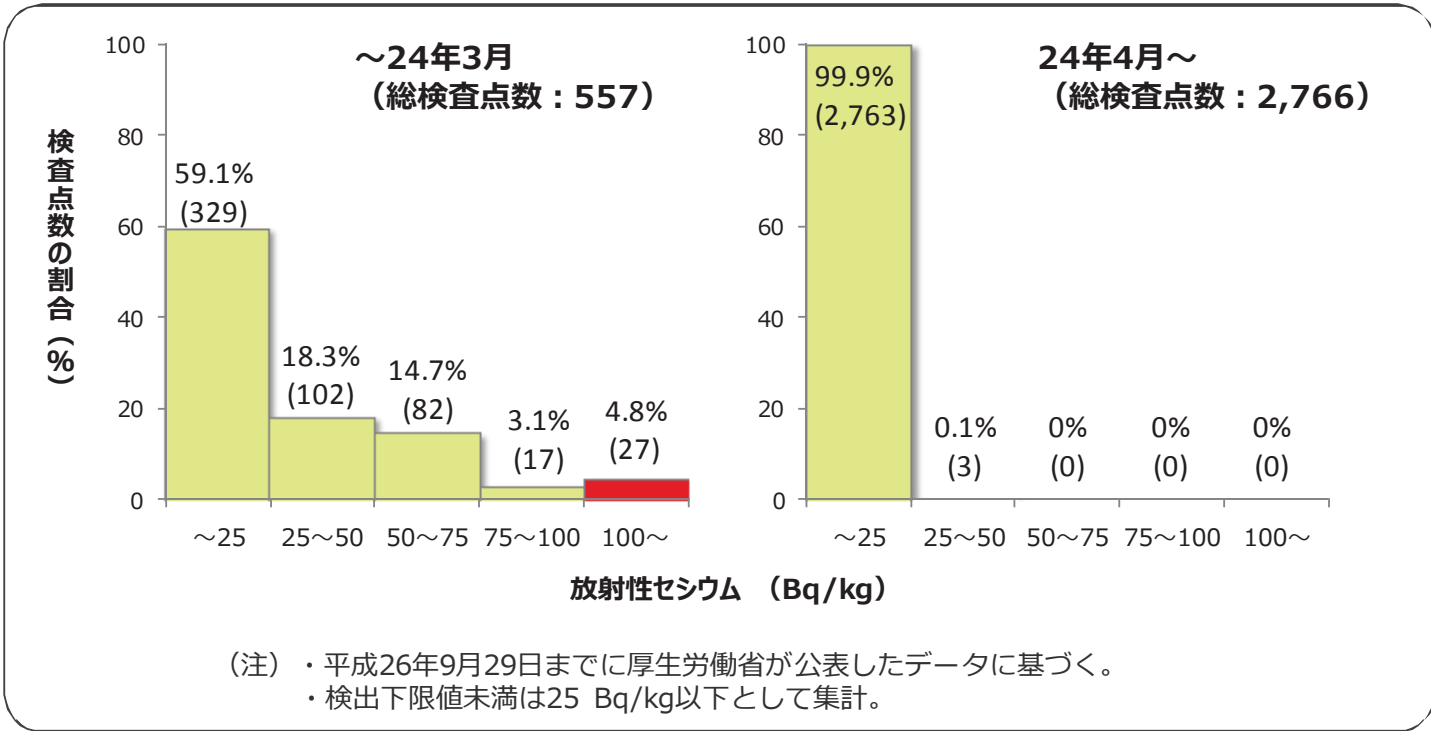
MAFF

MAFF

- QRコードで検査結果を確認できる
 ふくしまの恵み安全対策協議会 (<https://fukumequ.org/ok/kome>)

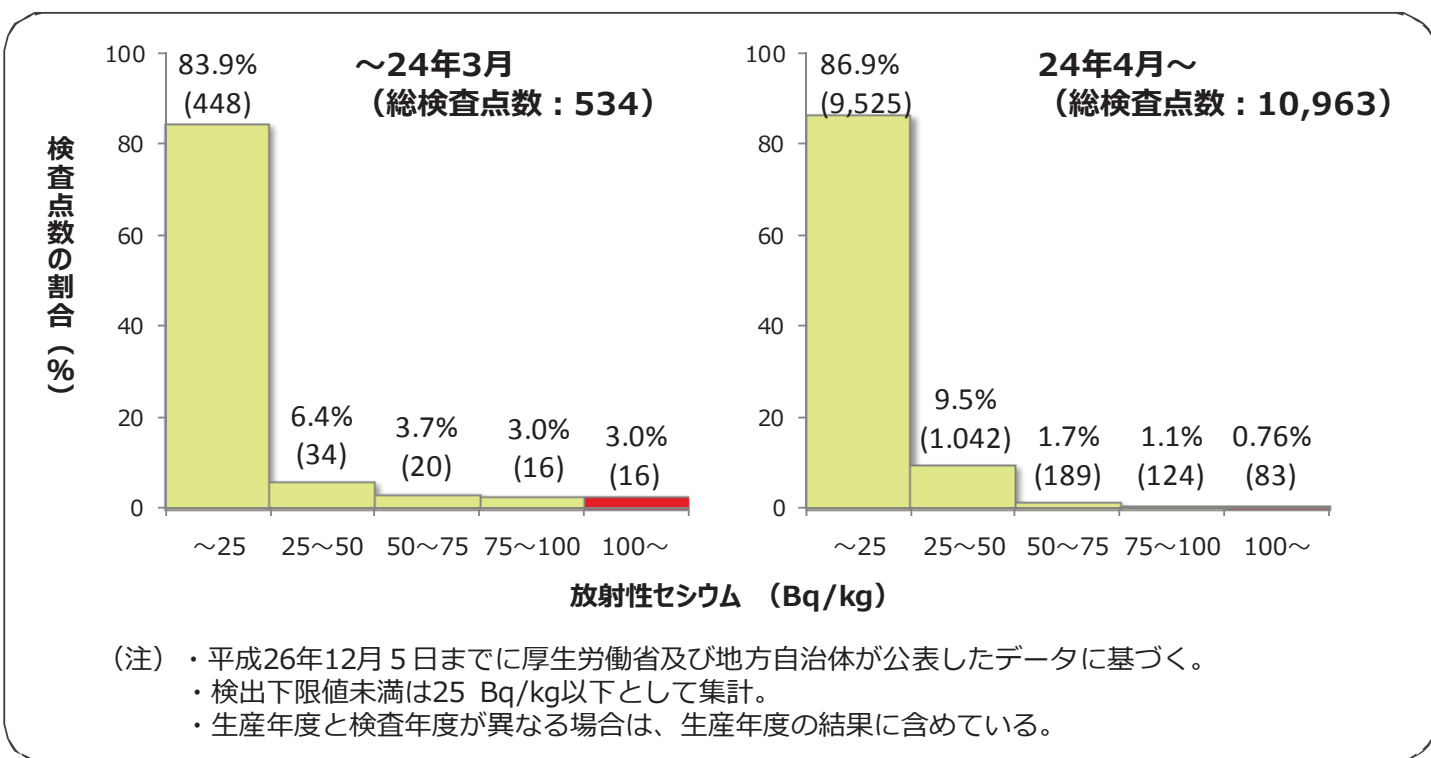
検査結果：麦

- 事故直後に放射性物質が生育中の麦に降下・付着したことから、100 Bq/kg超がみられた。
- 24年度以降は、基準値超過なし。



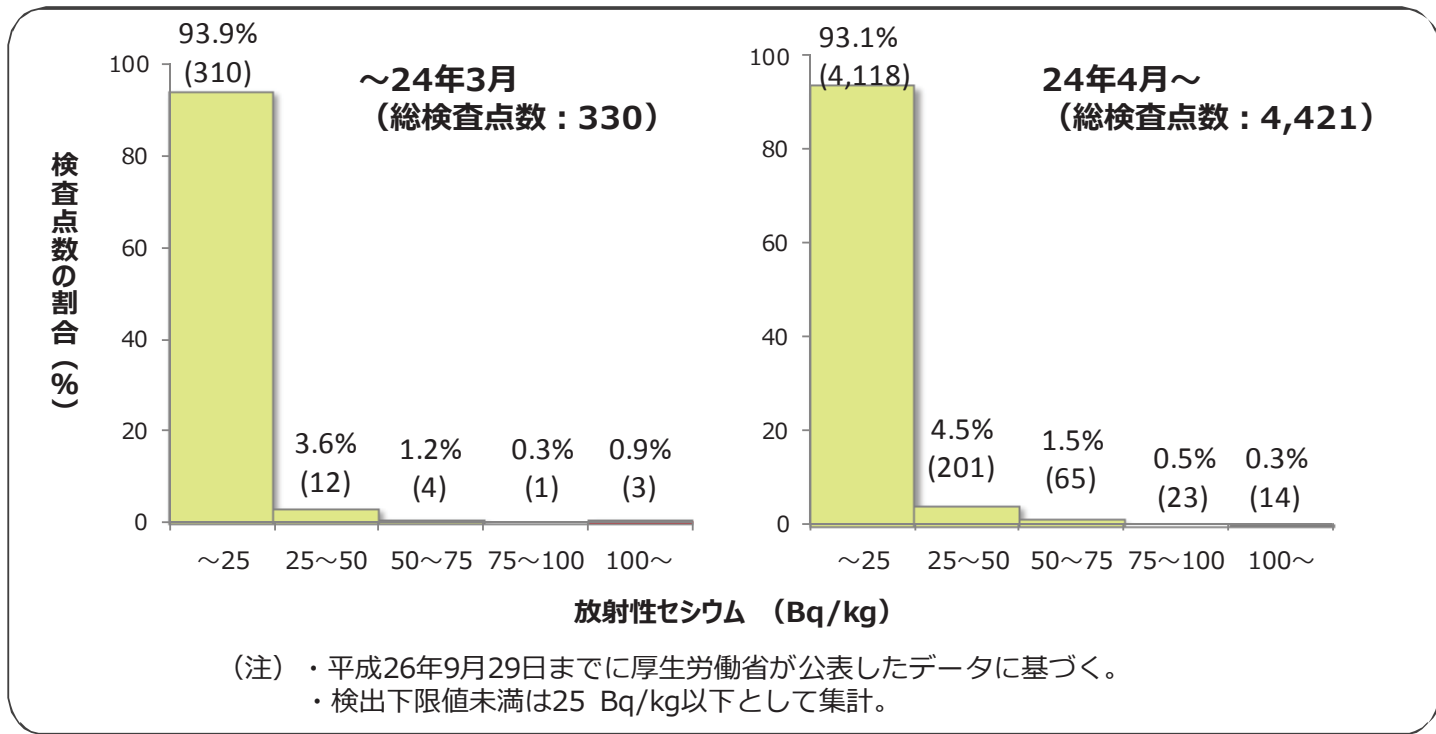
検査結果：大豆

- 23年度は、根からの吸収によってわずかながら100 Bq/kgを超過。
- 24年度以降も100 Bq/kg超過がみられるものの、その割合が低下。



検査結果：そば

- 23年度は、根からの吸収によりわずかながら100 Bq/kgを超過。
- 24年度も100 Bq/kg超過がみられるものの、その割合が低下。
- 25年度以降は、吸収抑制対策の効果もあり、100 Bq/kgの超過はなし。



- (1) 野菜、果実、茶等の農産物
- (2) 米、大豆、そば
- (3) 畜産物
- (4) 特用林産物 (きのこ等)
- (5) 水産物

飼料の暫定許容値

食肉や牛乳が基準値※を超える放射性セシウムを含まないように、飼料の暫定許容値を設定

※ 食肉 100 Bq/kg、牛乳 50 Bq/kg

	暫定許容値 (Bq/kg)
牛	100
豚	80
鶏	160
養殖魚	40

家畜の飼養管理等の指導

- 飼料の暫定許容値以下の粗飼料（牧草等）を給与するなどの適切な飼養管理の徹底
- 暫定許容値以下の牧草生産が困難な牧草地の反転耕等による除染対策の推進
- 代替飼料確保の支援



26

畜産物の放射性物質検査

検査の体制

① 牛肉

- 5県（岩手、宮城、福島、栃木、群馬）では、3カ月に1度、全戸検査を実施。
- 特に、4県（岩手、宮城、福島、栃木）は、一部の農家において出荷に当たり全頭検査を実施。

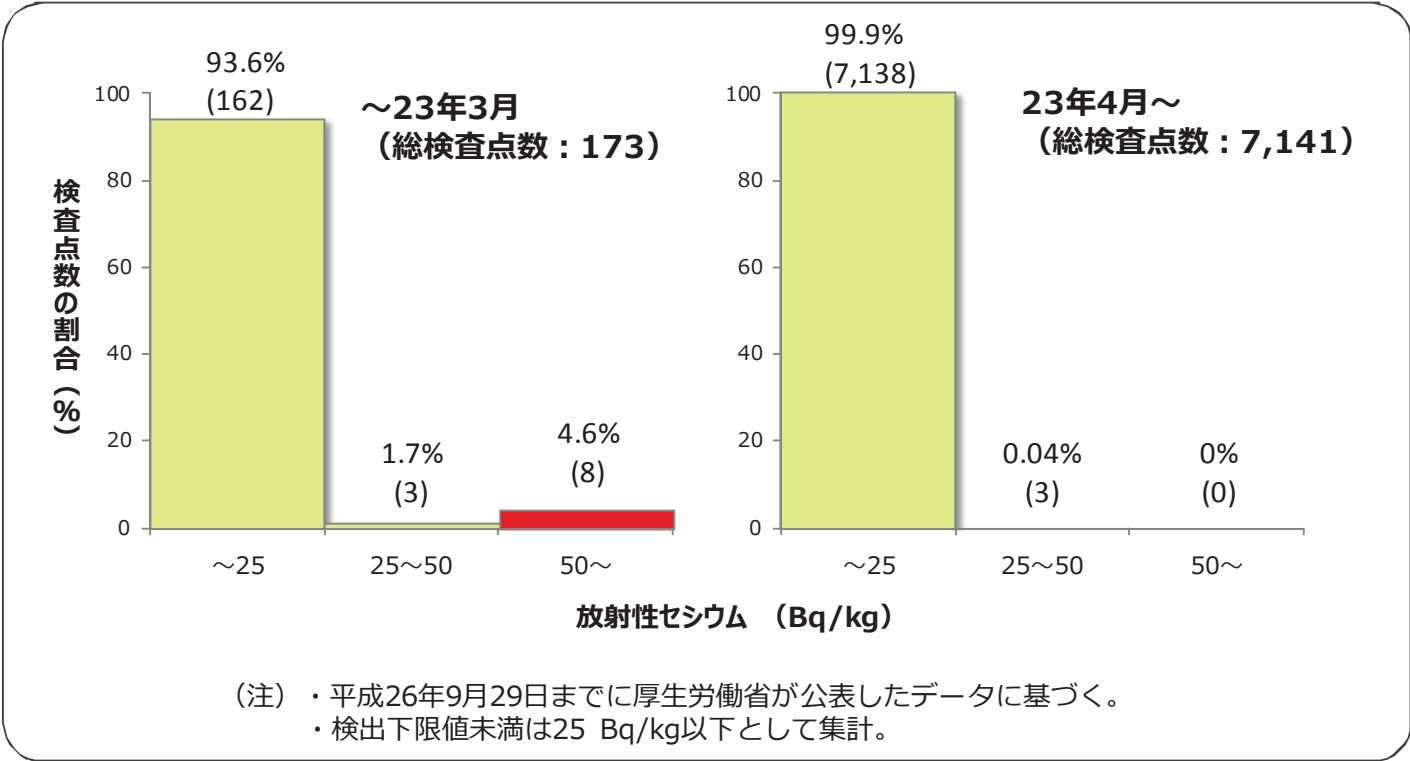
② 乳の検査頻度

- 5県（岩手、宮城、福島、栃木、群馬）では、2週間に1度検査。

27

検査結果：原乳

- 原発事故当初に50 Bq/kgを超過したものがみられた。
- 23年4月以降はすべて50 Bq/kg以下で、基準値超過なし。



検査結果：牛肉

- 23年度は、高濃度の放射性セシウムを含む稲わら等の給与により100 Bq/kg超過がみられた。
- 24年度以降は100 Bq/kg超の割合は大幅に低下し、25年度以降は基準値超過なし。

